

このコーナーでは、京都のまちづくりに取り組む企業・団体をご紹介します。
今回は、長年賛助団体として当財団の運営にご協力いただき、また、「教育」「文化・交流」「地域環境貢献」を軸として広く社会貢献活動をされているローム株式会社です。
総務部総務課の山根慎太郎さんと、安川雅弘さんにお話をうかがいました。



美しいまちづくり

ロームでは「森の中の工場」をコンセプトとして本社周辺の歩道・緑化整備やイルミネーションなどを行っており、地元・京都の美しいまちづくりに努めています。今年で17回目となったイルミネーションは、「光と音楽」をテーマに本社周辺の木々を約80万球の電飾で彩りました。京都駅前ビルのライトアップは「京の光暦(ひかりごよみ)」と称し、

町並みに調和するデザインで繊細な季節感を表現しています。地域貢献のためと自主的に取り組んできた活動ですが、多くの方からご好評いただいています。また、春と冬の風物詩となった「京都・花灯路」*では、「ロームが灯す灯りと花の路」と題してロームのLED電球が、文化遺産や風情ある町並みを照らしています。

*嵐山・東山でそれぞれ12月と3月に開催されるライトアップイベント。

音楽文化への支援

創業まもない頃から、継続的に文化支援を行っています。特に音楽文化への支援に力を注ぎ、1991年には「(財)ロームミュージックファンデーション」を設立、多くの若い音楽家たちへの支援やコンサートへの支援をしてきました。また、京都府会館の再整備のコンセプトに共感し、50年のネーミングライツという形でお手伝いさせていただいた「ロームシアター京都」が、文化の殿堂として広く愛されることを願っています。



左：ロームシアター京都（外観）
下：ロームシアター京都（内部）

「50年後のあるべき姿を見据えて」

持続可能な社会を実現するために、社会的課題を解決しつつ企業活動を実践するCSV(共通価値の創造)の考え方が広まっていますが、ロームは創業時から「企業目的」に基づき、品質を第一としたモノづくりを通して、文化の進歩向上に貢献するために挑戦を続けてきました。ロームの製品(半導体や電子部品)は普段目に付かないものですが、それらを技術革

新していくことが自動車や産業機器、スマートフォンや家電製品の高機能化を実現し、ひいては社会貢献につながると考えています。

ロームでは品質第一のモノづくりと、よりよいまちづくりへの貢献を継続していくことで、さらなる発展を目指し、京都とともに歩んでいきたいと考えております。

写真提供：ローム株式会社
撮影：小川重雄

パートナーシップで進めるまちづくり

京まち工房 73

特集 P2-3

シンポジウム「創造のまち・上京」
—伝統から創造する上京の可能性—

P4

古門前通元町のまちづくり

P5

京町家の保存活用方法を検討するワークショップの開催

P6

「地域の景観まちづくりを応援する仲間を増やしたい」
森川宏剛氏

P7

海外からも注目の「京都の景観・まちづくり」
インタビュー報告

P8-9

景観・まちづくり大学

P11

私と京都スタッフのつづやき

P10

「京のまちかど」案内ボランティアさん紹介
図書コーナーからのお知らせ

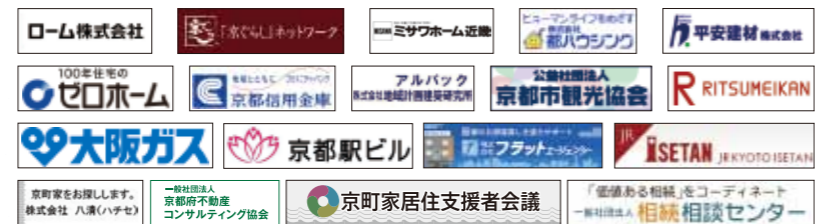


平成27年度
賛助会員募集中!

入会をご希望の方は
まちセンにお問合せいただくか、
ホームページをご覧ください。

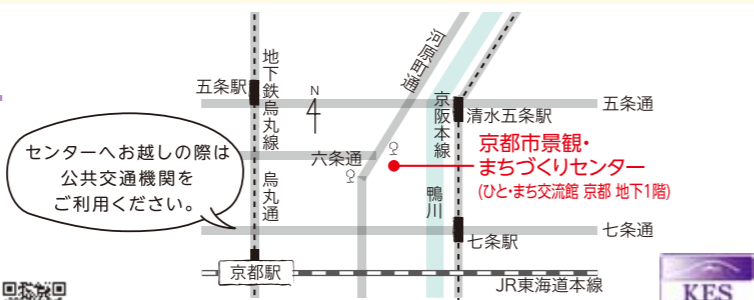
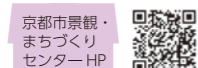
京都市景観・まちづくりセンター 賛助会員募集 検索

賛助団体



公益財団法人
京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1
(河原町五条下る東側) ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL : 075-354-8701 FAX : 075-354-8704
E-mail : machi.info@hitomachi-kyoto.jp
http://machi.hitomachi-kyoto.jp/



公益財団法人京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

創造のまち・上京

—伝統から創造する上京の可能性—

話題提供



話題提供・コーディネーター
京都府立大学生命環境学部教授
宗田 好史氏

1980年代、産業空洞化と地域力の衰えが進んでいた欧米の都市の中で、「芸術文化の創造性を生かした都市再生の試み」が成功を収めて以来、世界各地で進んだ取組を「創造都市」と呼びます。京都 세계적인創造都市ですが、とりわけ上京区の西陣は、京都の中でも最たる「創造のまち」です。「新しいアイデアは古い建物から生まれる」という指摘が示すとおり、上京区に多く残る町家が、ものづくり作家やアーティスト、若者を惹きつけ、地域がそれを受け入れたことで、まちが活気を取り戻す原動力になりました。そこで、上京区が「創造のまち」として、いかに地域の価値を高め、多くの人を惹きつけるのか、上京区を中心に活動している取組を通じ、これからのまちづくり活動のヒントを考えます。

活動の事例紹介

各登壇者の方たちの活動の紹介と、その活動が、どのように地域の価値を高めることにつながっているか発表していただきました。



飯高 克昌氏 特定非営利活動法人アニュアルギャラリー 代表理事

外に出るギャラリー：地域社会×アート・デザインの可能性

地域に眠る資源の発掘や新たな価値の創出をテーマに、町家を改修してギャラリーを運営しています。まちそのものを「表現する場」と考え、地域との関わりを重視しており、また、町家で活動することで地域の人にも受け入れられやすいという相互作用も感じています。今年、ギャラリーに町内の人を招き、学生や留学生とともに地蔵盆を行うなど、町家が持つ職・住・交流の機能を活用しています。まちづくりにおけるアートの活用について、お互いがうまく影響し合い、まちの価値創出につながられるような活動を展開しています。



水野 成容氏 京都リサーチパーク株式会社 常務取締役

西陣の町家からはじまるイノベーション

町家スタジオの運営母体である KRP (京都リサーチパーク) は、京都の産業発展のために、全国初の民間運営の「産学公連携・新産業創出拠点」として出発しました。町家スタジオは、支援と交流の場として、新たな産業、起業創出につながることに取り組んでいます。「集・交・創」という KRP の社是にあるように、人が集まり、情報交換をするなかで、新たな創造につながると考えています。若い方には、町家ならではの落ち着いた空間が魅力的に感じられています。ここに集まる若い世代から新しいアイデアが生まれ、起業やイノベーションで、地域への貢献につながればよいと考えています。



水野 秀比古氏 写真家・株式会社水野克比古写真事務所 専務取締役

写真を通して知る、京都の美意識

写真家一家で、西陣の町家で写真館を運営しています。写真家として「四季」を意識し、それが一番感じられるのが町家の暮らしだと考えています。そして、町家の生活に根づく伝統的な文化によって「美意識」が育まれています。町家は年々減少していますが、一度なくなってしまうものは元に戻りません。町家に暮らしていると、子どもたちも自然と、しきたりや風習を学んでくれているように思えます。そんな暮らしを未来に引き継ぎたいと考え、伝統文化祭「千両ヶ辻」の運営に携わるなど、自分たちのまちの魅力の再認識と発信にも努めています。



細尾 真生氏 株式会社細尾 代表取締役社長

伝統と革新の生まれるまち ~文化と芸術が創り出すまちのイノベーション~

西陣の町家から、独創的な広幅の織物を生み出し、世界に発信しています。商社で海外勤務を経験し、世界の視点から西陣織を見てその美しさを再発見し、世界に広めたいと思ったことが革新の原点でした。広幅の織物を創れるようになるまでは失敗の連続でしたが、職人さんたちの協力により技術革新に成功し、世界にその価値が認められたことで、帯や着物だけでなく、アートや工業デザインなどさまざまな分野で使われる織物へと生まれ変わりました。世界が日本の技術や精神性に魅力を感じ注目しています。才能ある人々と出会い、交流し、協働することにより、伝統の世界に革新を起こし、西陣の織物の新たな可能性を実現しています。



11/7 (土) 上京区の元西陣小学校において、景観・まちづくりシンポジウム「創造のまち・上京」を開催しました。地域に息づく暮らしの文化、歴史と記憶を刻んできた町並み、京町家など、歴史と魅力あるまちを守り育てていくために、これからのまちづくりの新たな可能性について考えました。



パネルディスカッション

それぞれの活動を通して、これからのまちづくり活動に求められること、展望されるまちの可能性について考え、以下のことを実践していくことが、これからのまちづくりのポイントになることが見出されました。

1 再認識・発信

まちに目を向け、発信する

水野 秀比古氏 自分たちのまちや暮らしのしきたり、文化を再認識し共有することで、地域の連携や新しい活動につながる可能性がある。

町並みの統一感がなくなってきた。このままでは他の都市と変わらない、特徴のないまちになってしまうという危機感を持つべき。

細尾 真生氏 町家はマスメディアによって取り上げられる機会が多い。京都や地域にもたらず町家の経済効果を認識し、もっと発信していくべき。

2 寛容さ

自分とは立場や考えが異なる人々を理解し受け入れようとする努力が、境界を取り払う。

水野 成容氏 若い人が多い京都の地の利を生かすことが重要。

飯高 克昌氏 地域の方に受け入れられるためには、外から来た人も、地域のことを理解し、つながりを持つとうとする姿勢が大切。

3 交流

多くの人や才能と交わり、さまざまな発想に触れることで、新しいアイデアが生まれる元となる。

飯高 克昌氏 京都は文化で世界とつながることができる数少ない都市である。

水野 秀比古氏 地域は優れた才能の持ち主の宝庫。そういう方たちとつながり、協働をすることで、自分の世界やまちにも広がりが生まれる。

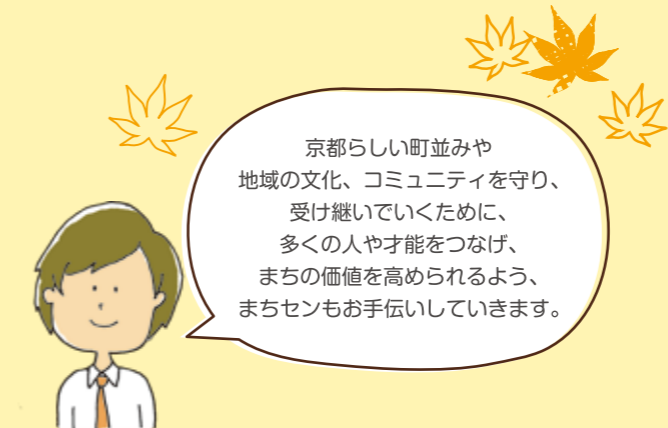
水野 成容氏 同じような人・業種で固まるのではなく、多様な人たちとのざっくばらんな議論がイノベーションを生み出す種になる。

細尾 真生氏 さまざまな才能の人たちを受け入れ、交流することがまちのイノベーションにつながると考えている。

経済人の地域貢献の必要性はこれからますます高まるが、経済人である以前に、一人の市民、区民として地域のお手伝いに取り組んでいく。

宗田先生から

さまざまな才能や発想を持った人々が出会い、交流し、地域がそれを受け入れることで創造的なまちが生まれます。まちに魅了され、そして、受け入れられた彼ら、彼女たちは、「まちの元気の仕掛け人」になります。お互いを認め合い、まちの発展を願い、自らも成長しようとする活動のなかに京都の未来が展望されます。



京都らしい町並みや地域の文化、コミュニティを守り、受け継いでいくために、多くの人や才能をつなげ、まちの価値を高められるよう、まちセンもお手伝いしていきます。

凜としたたずむ趣のまち

古門前通元町のまちづくり

古門前通元町では、元町に住んでいる方、お商売をされている方、専門家、京都市、当財団が協働しながら、平成27年8月に地区計画を策定しました。取組開始から策定までの2年間を振り返るとともに、今後の活動について、元町でまちづくりに取り組んでおられる皆さんにお話をうかがいました。

基本情報

場所：三条京阪の南に位置する古門前通の南北両側を中心とする町内です。

人口：160人
世帯数：99世帯
(平成22年度国勢調査より)



元町の夏祭り

元町ってこんなところ



古門前通元町地区は知恩院参道のまちとして多くの人々が往来し、時を重ねるなかで逸品の古美術品や高い美意識をもった生業が集積し、日本有数の古美術のまちとして成熟してきました。今は住環境に恵まれた元町ですが、繁華街に近い風俗店や深夜営業の店が進出することを心配する声が上がりました。平成25年6月に、元町まちづくり協議会が有志によって設立され、地区計画制度を活用したまちづくりの取組が開始されました。平成26年5月には、まちづくりビジョン『凜としたたずむ趣のまち古門前通元町』を決定し、平成27年8月には、古門前通元町地区地区計画が都市計画決定されました。

議論の場、おしゃべりの場としての意見交換会

毎月一回意見交換会を開き、参加者で地区計画の内容を検討しました。京都市まち再生・創造推進室のサポートや、まちづくり専門家の石本氏のアドバイスや提案を受けながら議論を重ねました。



意見交換会の様子

話し合いの内容は、毎回まちづくり協議会ニュースとしてまとめ、必ず全戸配布をして、活動の周知に努めました。

当初の意見交換会は、地区計画の内容を議論する目的の集まりで、住民の方が中心でしたが、徐々に美術商の方にも参加いただくようになりました。昔の元町の地蔵盆の様子や生業など、さまざまなまちのことに話題が広がり、茶話会のような交流の場にもなっていました。

現在の落ち着いたまちなみや個性的な生業、住みやすい住環境の維持向上を目指し、建物の用途制限を行いました。

地区計画の主な内容

- ① 風俗店の規制
- ② パチンコ、マージャン屋などの規制
- ③ カラオケボックスなどの規制 など

※地区計画の内容について、詳しくは、京都市地区計画決定状況一覧表より「古門前通元町地区地区計画」をご覧ください。

古門前通元町地区地区計画 検索

継続したまちづくりに向けて

地区計画策定を記念して

「元町の夏祭り」を開催しました！

元町の地蔵盆は、昔は通りで盆踊りをするなど、とても盛大な行事だったことがわかりました。そこで地区計画の検討を通じて再確認した元町の絆を再生し、今後のまちづくりにつなげていくために、地蔵盆に合わせ「元町の夏祭り」を企画しました。手作りの行灯100基を夕闇の古門前通に並べ、三味線の音色を聞きながら、皆で夕涼みをしました。



行灯づくり



地蔵盆の集合写真

この夏祭りで多くの方に参加協力をいただいたことから、この秋、新しいまちづくり組織「元町凜の会」を設立し、新たな活動を開始しています。

まちづくり協議会立ち上げのときから欠かさず来てくださっている方々に感謝します。おかげさまで地区計画も策定されました。今後もこの流れが続いていくことを願っています。

一人でも多くの新しい方のご参加を期待し、希望します。

元町のいろいろな問題などを出す場として今後も運営していきたいと思っています。



副会長 松久さん 副会長 犬丸さん 会長 高山さん

「元町凜の会」の皆さん

京町家の保存活用方法を検討するワークショップの開催

「京都市歴史的建築物の保存及び活用に関する条例」(3条その他条例)をご存知ですか？

京町家を保存・活用するために増築や建物の用途を変更する場合、建築基準法について、どのような規定が適用されるのか、そのうちの規定に適合が困難なのか、ケーススタディを通じて議論していただくワークショップを平成27年9月に開催しました。

また、規定への適合が困難な場合に『3条その他条例』(右記参照)を活用することについて議論していただきました。

設計者や不動産などの実務者の方々にご参加いただき、3テーブルに分かれて、京町家の改修実績があるテーブルコーディネーターを中心に議論を行いました。

9/8 9/8 ワークショップ 第1回 一般的な規模の町家でのケーススタディ

①一棟貸しの簡易宿所への用途変更

②住宅の浴室・トイレの増築

議論のなか、延べ面積*が200㎡未満の小規模な町家を①一棟貸しの簡易宿所に用途変更する事例では、「建築基準法に適合させながら比較的容易に計画できることがわかった」と多くの方が納得されていました。

②増築においては、「構造や防火に関して、建築基準法の現在の規定が適用され、京町家の特色を活かしながら法に適合させて計画することが難しく、『3条その他条例』の活用が有効なので、ぜひ手続きなどを簡略化してほしい」という、京都市への要望もありました。

9/29 9/29 ワークショップ 第2回 実在の大型町家でのケーススタディ

●旅館への用途変更

「延べ面積が200㎡以上の大規模な町家を旅館に用途変更する事例では、建築基準法の燃えにくい内装とすることなどの規定により、京町家の仕上げやしつらえを残すことが難しいことがわかった」、「『3条その他条例』の活用が必要となる保存活用計画書についてイメージをつかむことができた」などの意見が挙がりました。

また、「地域で防災計画を定めるなどの取組がある場合、個々の建物への規制の緩和が検討できるのではないかな」といった提案もありました。

ワークショップを振り返って…

建築基準法のなかでも、増築や用途変更により、現在の規定が、何に、どのように適用されるかということは設計者であっても理解しづらい項目であり、京町家の改修設計の法的な検討を敬遠されている方もおられるようでした。

ワークショップでは、規模などによっては建築基準法の適用を受けながらも京町家のよさを活かした設計ができること、またそれが難しい大規模な建物では、『3条その他条例』が有効なツールになることがわかりました。『3条その他条例』は京町家継承の心強い味方として、今後の手続きの簡略化などに期待したいものです。

※ 建築物の各階の床面積を合計したもの

京都市内には、京町家など、歴史的建築物が数多くあります。しかし、増築や用途の変更などをするときには建築基準法の対象となり、元々の外観や内部の雰囲気を活かしながら使い続けることが難しいことがあります。

京都市では、これらの特色を活かしながら使い続けるための計画(保存計画書)などを作成した建物については、建築基準法の対象外とし、増築や用途の変更ができるようこの条例を定めています。

「法の適用が整理されてわかりやすい」とワークショップ資料も好評をいただきました



和やかな雰囲気のなか熱い議論が行われるとともに、実務者同士の交流も深まりました。

住まいの工房主宰

松井 薫氏 より
(『3条その他条例』活用経験をお持ちの建築士)

実際に『3条その他条例』を活用した案件をもとに、構造やデザインの両面で京町家のよさを活かした計画が可能になるという条例活用のメリットなどについて、伝統工法を活かした点など具体例を挙げてお話しいただきました。

京都市建築指導課課長

中山 雅永氏 より
これまでの実務者からのご意見を踏まえ、今後の『3条その他条例』について、手続きの簡略化や対象の整理の検討など、今後の展望をお話しいただきました。

地域の景観まちづくりを 応援する仲間を増やしたい

当財団では、多くの専門家の方々のご協力のもと、地域のまちづくりや京町家の保全・再生に関わる事業を行っています。そこで当コーナーでは、深い知識や多くの経験、また熱い思いをもって京都のまちに関わっておられる専門家の皆さんをご紹介します！

今回はこの方！



森川 宏剛氏(NPO法人京都景観フォーラム)

私は、一昨年まで、まちセンのまちづくりコーディネーターとして勤めておりました。地域のルールづくり、まちづくり協議会などの活動支援、マンション問題の相談など、多い時で20地域ほどとお付き合いさせていただいていました。現在はNPO法人に移り、引き続き地域の支援を行うとともに、同じように地域を支援する仲間、京都景観エリアマネージャーのネットワークを拡げる取組を進めています。

1 共同体の再構築と景観まちづくり

まちセンにいた頃、たくさんの地域とお付き合いしながら感じていたことは、地域の共同体としての力が徐々に徐々にではありますが弱くなっていること、それに伴って、地域での合意形成やかじ取りが難しくなってきたことでした。これから人口減少や高齢化、個々人の関係の希薄化がさらに進むとすると、地域の共同体の維持が難しくなっていきます。セーフティネットとしての意義に留まらず、地域の価値を共有し高めていくために、意見の違う人同士も包含するような共同体を再構築することが必要だと、それが景観まちづくりを進める基盤にもなると考えました。またその運営には専門家などさまざまな地域外の方も活かす方がよいと考えようになりました。それ故まちセンの周りに、地域運営の実情も理解し、地域に寄り添うようにサポートできる多分野の専門家のネットワークができればと考えていました。



2 地域を支える多様な人材の発掘とネットワーク化

そんななかで出会ったのが、当時はまだ京都市の未来まちづくり100人委員会の1チームであった京都景観フォーラムの面々です。地域を支える専門家を増やしていくために、まずは自分たちが学ぼう、そのための講座を立ち上げようとしたのが、京都景観エリアマネジメント講座です。

今年で6期目で、昨年までに基礎講座・実践講座ともに修了し、京都景観エリアマネージャーに登録してくれている方は、建築や土木、デザイン、税理士、司法書士など分野も多岐にわたり総勢49人となりました。その途上で、京都景観フォーラムも法人化し、京都市から景観整備機構の認定もいただき(京まち工房69号参照)、私もその専門家の一人として活動することになりました。



京都景観エリアマネジメント講座の様子

3 地域を支援しながら、地域に育ててもらう

地域を支援する際には、地域の方との信頼関係の構築が不可欠です。京都景観エリアマネージャーは、信頼を得るために二つのことを大事にしています。一つ目は、景観まちづくりに活かすそれぞれの「専門性の高さ」です。常に研鑽していくことが必要です。二つ目は、地域の人、他分野の専門家、行政などとの「協働のふるまい方」を身に付けることです。地域の



主体性を大切にす、また、まちづくりに関わる多様な主体がチームとして機能しパフォーマンスを最大化するようなふるまい方のことです。これらを現場の経験を積み重ねながら、身に付けていこうとしています。

4 京都市地域景観まちづくりネットワーク

最近取り組んでいることですが、京都市の地域景観づくり協議会の認定を受けた7地区のネットワークの事務局を担っています。地域景観づくり協議会という制度は、地域の内建築行為などを行う場合に協議会との話し合いを義務づける仕組みですが、強制力はありません(京まち工房60号参照)。つまり7地区は、話し合いの力のみで、関係をつくり物事を動かしていこうという、なかなか困難な取組にチャレンジしています。そのノウハウを交流しそれぞれの活動に活かすことがネットワークの主な役割です。地域同士が主体的に立ち上げたネットワークであり、今後の可能性に大いに期待を寄せています。



視察受入状況

海外からも注目の「京都の景観・まちづくり」

平成27年度(4月~11月)は、国内23団体、海外10団体の視察を受け入れました。行政関係や大学関係の団体のほか、小中学生の修学旅行学習の一環とした、展示施設「京のまちかど」の見学もしていただきました。

京都は、近年住民参加のまちづくりを進めている韓国をはじめとして、海外からも住民主体のまちづくりに先進的に取り組む都市として評価され、注目を集めています。

また当財団に対しても、行政機関とは異なる立場から景観・まちづくりに取り組む組織として、国内外から強い関心をお寄せいただいています。このような京都の景観・まちづくりの取組を、今後も全世界に発信していきます。



韓国水原(スウオン)市の視察団(姉小路界わい)

京都は観光都市としてだけではなく、さまざまな視点から関心が寄せられているんですね。

まちセンの取組は海外からも高い注目を受けています!!



インドネシアディポネゴロ大学の視察の様子(新門前西之町)



韓国MBCテレビから取材を受けました!

展示施設「京のまちかど」(ひと・まち交流館 京都1階)



京都のまちの成り立ちについて学びませんか?

平安時代から現代までの京都のまちづくりの流れや町並みの様子を、模型、ビデオ、パネルなどを活用してわかりやすく展示しています。床面には平成12年の大きな航空写真を展示し、壁面にも昭和21年の写真がありますので、京都市の地形の変化や市街地の広がり、さまざまな観光地・施設が空から見るようになります。また、知識豊富なボランティアガイドによる、展示説明も行っています。ぜひお越しください。

インターンシップ報告

まちセンでは、公共人材育成事業としてインターンシップの受入れを行っています。

8月~9月に実習に来られた若井健一郎さん(京都府立大学 生命環境学部環境デザイン学科3年生)から報告をいただきました。

「インターンシップ実習を終えて」

まちセンをインターンシップ先に選んだ理由は、京都の「景観政策」や都市計画学分野の「まちづくり」、まち再生の職業分野の仕事を実際に体験してみたかったためです。

地域まちづくりの支援業務では、地域へのヒアリングや「地域景観まちづくり協議会」といった現場での意見をを通じて、景観まちづくりに関する多様なルールのなか、住民が主体的に地域のために活動されていることを知り、このような地域団体があるまちに住むことは誇れることだと思いました。

また、京町家の保全・再生に関する業務では、京町家カル

テの現地調査に同行するなかで、「まちセン」が住民・行政・企業などの間で「橋渡し役」として機能していると感じ、もっと広く皆さんに知ってもらいたいと思いました。

実際に景観・まちづくりの現場を体験して、責任を伴いながら実践して成果を出すことや、その実践の途中で発生する問題解決のプロセスが非常に難しいことを知ったことが印象深いです。このインターンシップで学んだことを自分の将来や地域社会の未来につなげていきたいと思っています。



京町家カルテの現地調査中の様子

景観・まちづくり大学

景観・まちづくり大学は、京都のまちづくりに関心のある人が集い、語り、交流する場です。共に学び、共に育つ…。元気なまちへの一歩、あなたから始めませんか。

京のまちづくり史セミナー

都市史の中でも、特に住民の自立した活動としてのまちづくりの変遷を学ぶ講座です。

平成27年
7月30日(木)

鴨川の治水事業と都市デザインの変容： 昭和大水害を中心に

講師：植村 善博氏（佛教大学）

平安末期、白河法皇が自らの意に沿わないものの筆頭に「賀茂の水」を挙げたように鴨川は氾濫を繰り返すあばれ川でした。今回のセミナーでは、昭和10年に起こった昭和大水害の被害とその発生要因を中心に、京都の地形と鴨川の水利的特色や鴨川の治水と京都の水害史のお話をいただきました。鴨川では、御所および市街地が広がる右岸は石積みの護岸堤防が築造されました。一方、左岸は遊水地としての機能を担っており、それを「治水秩序」と呼ぶことが説明されました。

昭和10年の大水害では、鴨川の堤防が2箇所決壊の危機に面した折、市民や軍人などの力によって寸前のところで食い止めたことなどを教えていただきました。

鴨川は京都の風情をたたえる美しい河川である一方で、

景観保護や水質保全のためダムなどを欠き、鴨川の河岸には高密度に市街地が接しており、水害の危険度が高い河川であることなどをお話していただきました。



昭和10年京都大水害

▲紹介された事例から
(右)四条大橋東詰めから西を見る。
(左)橋桁に流木・流材がせき止められ、越流の原因となった。



平成20(2008)年5月



まちづくり実践塾

まちづくり活動に活用できる情報を提供する講座です。地域まちづくりを行う上で基本となるテーマの講義に加え、実際の活動事例を紹介し、現在そして今後のまちづくり活動のあり方について考えます。

平成27年
8月5日(水)

京都の地域住民組織：戦前から戦後の展開

講師：中井 秀和氏（京都市文化市民局暮らし安全推進課）

今回は、京都の地域住民組織の戦前から戦後にかけての変遷を、行政との関わりを中心に話ししていただきました。住民自治の基本単位であった「学区」と学区制度は、昭和16年の国民学校令により廃止されます。これと相前後して、昭和15年には町内会が市町村の補助機関として位置づけられました。町内会の役割は物資の配給も担う多岐にわたるものであり、戦時中の国民生活のライフラインとしての役割を果たしていました。

戦後、連合国総司令部の命令により昭和22年に一旦廃止された町内会ですが、昭和27年、対日講和条約が発効すると、各地で次々と復活をしていきます。戦後の地域住民組織は、戦時体制の一部として機能したことの反省を踏まえ、任意組織として位置づけられました。これと

並行して、体育振興会や社会福祉協議会など特定の目的をもつ地域団体が、学区ごとに組織されていきました。これら各種地域団体は、町内会や自治会の連合組織とともに「自治連合会」を構成していくことになるのです。

戦前から戦後にかけての京都の地域住民組織は、組織体制や行政との関わりにおいて大きな変化を経験するとともに、現在の地域住民組織の原型となりました。最後に、京都市地域コミュニティ活性化推進条例が施行されるなど、地域の住環境を維持・向上させるために、近年行政が地域住民組織に期待を寄せていること、行政と地域住民自治組織の関わり方に今後新しい展開がみられる可能性が講師より述べられました。



京町家再生セミナー

京町家の“最初の一歩”としての基本講座です。身近な存在としての京町家の姿を知り、再生の方法などを学びます。

平成27年
8月30日(日)

町家の維持管理と傷みの早期発見、 庭の手入れと楽しみ方

【会場】らくたび京町家

講師：大下 尚平氏（一般社団法人京町家作事組理事）
木村 孝雄氏（一般社団法人京町家作事組）

共催：株式会社らくたび



左：木村氏、右：大下氏

会場となった「らくたび京町家」（京まち工房第71号参照）の改修に関わった大工さん、庭師さんから、直接、改修時の様子や工事中の苦労話、維持管理の方法、茶室の露地庭に端を発する京町家の庭の楽しみ方など、改修時の写真や庭石のサンプルを参照しながら、きめこまやかにお話しいただきました。お話を通して、この空間が改修に関わった多くの職人の皆さんの手仕事に支えられてよみがえったことを改めて実感することができました。さらに、

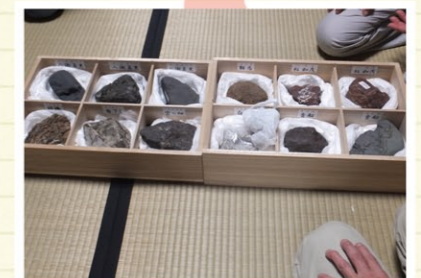
当日は、晩夏の小雨が過ぎ去った午後の一ととき、時折涼しい風が座敷を吹き抜け、雨に濡れた石や苔の色合いによって、京町家の庭がもっとも美しい姿を見せてくれる絶好の日となりました。また、会場をご提供いただいた株式会社らくたび代表取締役の若村氏からは、「らくたび京町家」を末永く後世につないでいくために、この空間を活かして実施しているさまざまな年中行事のご案内をしていただきました。



会場の様子 1階座敷



見学時の様子 2階座敷



木村氏にお持ちいただいた加茂七石のサンプル

今後の開催予定(冬季)

京のまちづくり史セミナー

第11回

テーマ 近代京都のなりたち：
新京極通の形成と発展をたどる
日時 1月22日(金) 19:00~21:00
講師 大塚活美氏（京都府立総合資料館）
受付 1月6日(水)～

第12回

テーマ 郊外の形成：衣笠園・下鴨
日時 2月15日(月) 19:00~21:00
講師 石田潤一郎氏
（京都工芸繊維大学大学院教授）
受付 1月6日(水)～

第13回

テーマ 京(みやこ)のまちづくり：近世から未来へ
～京都らしい空間形成とその継承～
日時 3月29日(火) 18:30~20:30
講師 高橋康夫氏（花園大学教授・京都大学名誉教授）
受付 1月13日(水)～

まちづくり実践塾「町内会・自治会連続セミナー(全3回)」

第1回

テーマ 京都の地域自治を知る
日時 2月22日(月) 19:00~21:00
講師 田中志敬氏（福井大学教育地域科学部）
受付 1月13日(水)～

第2回

テーマ 町内会・自治会の活動とは？課題とは？
日時 3月4日(金) 19:00~21:00
講師 田中志敬氏（福井大学教育地域科学部）、
コーディネーター 谷口弘氏（同志社大学客員教授/
コミュニティデザイン研究室代表）
受付 1月13日(水)～

第3回

テーマ 町内会・自治会の今後を展望する：
こんな町内会・自治会あったらいいな
日時 3月17日(木) 19:00~21:00
講師 田中志敬氏（福井大学教育地域科学部）
受付 1月13日(水)～

京町家再生セミナー

第10回

テーマ 今すぐ始める、日々の町家の掃除術と
メンテナンス手法
日時 2月24日(水) 19:00~21:00
講師 風月匠幹廣氏（認定NPO法人古材文化の会
伝統建築保存活用マネージャー会）
受付 1月7日(木)～

第11回

テーマ 近代京都のなかの京町家
日時 3月21日(月・祝) 13:30~15:30
講師 大場修氏（京都府立大学大学院教授）
受付 1月7日(木)～

会場 京都市景観・
まちづくりセンター

申し込み
方法

①セミナー名 ②開催日 ③氏名(ふりがな) ④電話番号
以上を明記の上、電話・FAX・入力フォームにて「京都いつでもコール」までお申し込みください。

TEL 075-661-3755 FAX 075-661-5855
京都いつでもコール 検索

展示施設

「京のまちかど」 案内ボランティアさん紹介



Vol.6
佐野 喜代子さん

このコーナーでは、京都市景観・まちづくりセンター1階にある展示施設「京のまちかど」で、展示案内をされているボランティアさんをご紹介します！
今回は、展示ボランティア2期生の佐野喜代子さんにお話をうかがいました。

Q 佐野さんのご出身はどちらですか？

京都市左京区です。生まれたころから、南禅寺や金戒光明寺（くる谷さん）が身近にあり、気がつけば、文化財に囲まれているという環境で育ちました。

Q ボランティアになったきっかけは？

何かの形で京都の魅力を伝えたいと考えていた時期に、「京のまちかど」展示ボランティアの募集があり、生涯学習にと思い応募しました。

Q 京都の魅力はどこでしょう？

古い町の伝統や習慣を残しながら、常に新しいものを取り入れ、独自の文化を生み出した町衆のパワーに惹かれます。

Q どのようなことを伝えたいですか？

歴史の舞台がすぐそばにある素晴らしさ、社寺、自然、町並み、暮らし、伝統的な文化、京都らしい京都を伝えていきたいです。

Q ボランティアガイドとして気をつけていることは？

「京のまちかど」には、全国各地から幅広い世代やご出身の方がお見えになります。なので、型にはまった同じ説明をするのではなく、来場者の方が聞きたいこと、興味を持っていることを感じ取って、お話をするようにしています。後々になってからでもよいので、少しでも、来場された方の心に響くもの、感じるものがあれば、うれしく思います。

また、自分自身、日ごろからさまざまなことに興味を持って、楽しみながら学習をしています。

私と京都



公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター顧問
京都市会議長
津田 大三

「今を生きる京都の町衆」

私は、京都市の真ん中（中京区）で生まれ、また私の祖先は、永年このまちに住んできました。京都に住んでいると気付かないことが多いのですが、大変恵まれた環境にあるのだと思います。

考えてみれば、お正月には、地域のボランティアの皆さんの新年会があり、場所によっては、餅つき大会がある。夏には、地藏盆が残っており、小学校区の夏祭りもあります。秋には区民運動会が開かれます。年末には消防団の皆さんに年末特別警戒をしていただけます。また、多くの地域団体の皆さまが、子どもたちのために見守り活動をしてくださいます。100万人以上の大都市で、このようなコミュニティが残っているのは、極めて珍しく、そんな都市は日本に京都市しかないと言っても過言ではありません。

これは、あの大きな戦争の際、戦災をほとんど受けていなかったために、脈々と続いてきたコミュニティが今もなお残っているからです。古きよきものを守り、神社・仏閣、またお祭りが大切にされ、葵祭、祇園祭、時代祭に代表されるような、大きな祭も地域の皆さんの温かい心で、守り続けられています。

おそらく、この地域に引っ越されてきた方も、そんなまちの魅力に惹かれて移り住んでこられたのだと思います。この大切なものを、しっかりと守って行かなければ

なりません。そして、次の世代へ引き継いで行かなければなりません。

東京の官僚や有識者のなかには、京都の人は何もせず、先祖から受け継いできた遺産をただ食いつぶしているのだと揶揄されることがあります。でもそれは、京都のまちを知らないからです。この大切なものを守っていくために、多くの人が努力をして、ボランティアをし、また、少しずつ寄付をして、守ってきているのです。そして、このコミュニティ、町衆こそが、京都の一番素晴らしい所だと思います。

けれども、少しずつこの大切なコミュニティが希薄になりつつあることを危惧しています。京都が京都であるために、大好きなこのまちが輝き続けるために。京都のど真ん中で、京都を守り続けて行かなければと思っています。

先祖から受け継いできたものを、次の世代へ大切に引き継いでいく。少しずつ、少しずつ変化をしながら、これこそが一番大事なことです。コミュニティのなかで、子どもたちは元気一杯遊び、そのエネルギーを貰って、お年寄りが光り輝いている。そして現役世代が安心して、仕事ができる。そんな京都のまちであり続けるために、今を生きる町衆の皆さんと共に汗をかいて参ります。

図書コーナーからのお知らせ

第6回ギャラリートークのご案内

「洛中洛外図に見る行事と遊び」

日時 1月15日(金) 午後2時～

上杉本洛中洛外図屏風の実物大複製パネルで、室町時代の遊びを一緒に見ませんか。



*事前予約は不要です。
図書コーナー横のパネル前にお集まりください。

これからの予定(平成28年)

4月 端午の節句と菖蒲合戦
7月 祇園祭特集
10月 屏風の中の秋

図書スタッフおススメ本

vol.7

「京都の空間意匠
12のキーワードで体感する」
著者 清水泰博



京都生まれの建築家である著者が、寺社や庭園、まちのさまざまな空間を、「巡る」「見立てる」「間をとる」など12のキーワードで探った本です。日ごろ慣れ親しんだまちなかの風景も、これらのキーワードを通すとまた違って見えてくるかも。各章でまとまった構成のため、どこから開いても楽しめます。



スタッフのつぶやき

町家に住んでから3回目のお正月が近づいてきました。歳の瀬は1年分の大掃除でおおらかなのですが、家と向き合う大切な機会です。大晦日には家を修繕してくれた大工さんが「根付き松」を玄関に飾りに来てくださいます。また、大工道具を携えて「何か不具合はありませんか？」とお声かけいただき、

建具の調子などを整えてくださいます。出入りの大工さんとのこういうお付き合いはとてもありがたく、長い間住み継がれてきた町家をこれからも大切に守っていこうと思います。

スタッフT.U.

